



いいまち

議会だより



新型コロナ対策
復興券の次は

第90号 令和2年7月15日

発行：長野県飯島町議会

写真／広報委員会

松本
そ・4

- P3 議会だよりモニターのひとつとあれどうなった 議会のハテナ? 
- P4 6月定例会 小・中学生にパソコン配備
- P5 社会文教分科会 子どもたちへ1人1台タブレット
- P6・7 総務産業分科会 繰越への考え方を指摘
- P8 請願・陳情
- P9 予算特別委員会 給食センターどう運営
- P10 本会議 表決結果
- P11 第3回臨時会
- P12・13 特集 全員協議会
- P14 第4回臨時会 議会の決議書
- P15 研修 社会文教委員会
- P20 町民の声を議会へ「町民の森」の再生で魅力発信

町政を問う

ここが聞きたい

4議員が質問

坂本 紀子 新型コロナウイルス
個人経営者への対応は … P16



浜田 稔 コロナ感染下
防災体制の見直しを …… P17



好村 拓洋 新型コロナウイルス収束後
まちの将来像は…………… P18



三浦寿美子 新型コロナウイルス対策
方針待ちでなく声をあげて… P19



「一般質問」とは
行財政にわたる議員主導による政策の議論です。(通告順)

表紙の写真/ドライブスルーマーケット

飯島町議会が全国32位・県内2位にランキング

早稲田大学マニフェスト研究所発表の議会改革度調査2019で、全国1788自治体中1433自治体の応募があり、飯島町議会は、総合で全国32位・長野県内2位にランキングされました。

評価点数が高かったのは、議会機能強化で全国25位・県内1位であった。これは、町民各位の協力や、町長以下職員の支援の結果であり、共に誇りたいと思います。

今後も町民に寄り添い、情報共有を進めよりよい議会となるように努めます。

県内 順位	全国 順位	議会名	順位			得点			得点合計
			情報共有	住民参画	機能強化	情報共有	住民参画	機能強化	
1	26	松本市議会	66	48	32	455	815	865	2,135
2	32	飯島町議会	354	58	25	255	800	950	2,005
3	33	飯田市議会	71	91	37	440	720	835	1,995
4	62	長野市議会	71	72	142	440	770	615	1,825
5	66	軽井沢町議会	310	20	119	275	895	645	1,815
6	95	豊丘村議会	402	6	371	230	990	420	1,640
7	102	飯綱町議会	201	72	238	330	770	510	1,610
8	120	宮田村議会	705	25	206	130	885	545	1,560
9	138	南箕輪村議会	767	18	253	110	905	500	1,515
10	202	長野県議会	639	117	291	150	700	475	1,325

議会だよりモニター のひとこと

広報紙面に対するご意見

- 新型コロナの中、満開の桜など明るい表紙が望ましかった。
- 一生心に残る入学式になりました。負けずに頑張れ。
- 横文字は格好いいが、意味がわからない。
※SDGs…国連が掲げる17の持続可能な開発目標
※5G…第5世代移動通信システム
※IoT…物に通信機能を搭載してインターネットに接続し連携させる技術
- 目次は見慣れ、見やすい。イラストが入り良い。
- 目玉的内容には1~2カ所カラー写真を。
- 横書きは読み易く良い。
- パンチングする時、センター印をつけてもらえると助かる。※今回から裏表紙に付けました。
- グラフ・表・写真も大きく見やすくスッキリした感じ。
- ただ文章で説明してあるより、イラスト・マンガなどでわかりやすい。

その他のご意見・感想

- 入学式がコロナの影響で、少人数やマスク着用でかわいそう。
- 自動車急発進防止装置取付補助はありがたい。
- 2年程経つので、多方面から意見を聞くためにもモニターの入れ替えを検討しては。

追跡あれ、どうなった

一般質問・審査での意見・請願陳情
その後のゆくえ

令和元年12月 一般質問

問 国民健康保険税 資産割を廃止し、3方式に

答 協議会で検討

その後

令和2年4月
3方式に変更(所得・均等・平等割)

議会のハテナ?

もうすぐ町議選〈第2回〉



公選法が改正され、供託金と選挙費用公費負担が盛り込まれました。詳細は92号に掲載予定。

小・中学生全員にパソコン配備 活用できるか

6月定例会は6月8日から17日までの10日間の会期で開催し、条例の専決承認3件・条例3件・令和元年度専決補正予算4件・令和2年度補正予算5件の計15議案を審議しました。

令和2年度補正予算全5会計は、予算特別委員会を設置・付託し、請願・陳情は各常任委員会に審査を付託しました。審議内容と審議結果はP5～10をご覧ください。

新型コロナウイルスの感染防止などを踏まえて当初の計画から会期を短縮。対策に対応している職員の負担軽減のため、議長から自粛要請のあった一般質問は、時間を短縮して4人が立ち、町政を質しました。

令和元年度

専決処分の承認

令和元年度事業の確定にともなう一般会計・3特別会計補正と町条例3件の専決を全員一致で承認しました。

◇条例改正

・町税条例等

地方税法等の一部改正による

・国民健康保険税条例

課税限度額の引上・軽減の基準額見直しによる

・介護保険条例

賦課軽減率の改正により1～3段階が減額となる

◇一般会計(第11号)

3818万円を減額し、総額52億1335万円に

財政調整基金 1億円積立

◇国民健康保険(第5号)

5202万円減額し、9億3057万円に

◇後期高齢者医療(第4号)

25万円減額し、1億3901万円に

◇介護保険(第5号)

4476万円減額し、11億1316万円に

令和2年度

補正予算

一般会計(第3号)

1億183万円を増額し、総額61億4177万円としました。

国の公立学校情報機器整備補助金による整備などです。

主な財源

・国庫支出金	3346万円
・県支出金	1684万円
・繰入金	2000万円
・繰越金	1000万円
・町債	1050万円
・財産収入他	1103万円

主な支出

・小中学校パソコン設置	6274万円
・水路改修工事	1380万円
・播鉢窪避難小屋改修	1218万円
・コミュニティ助成	480万円
・千人塚四季彩プロジェクト	327万円

特別会計

◇国民健康保険(第1号)

諸支出金50万円増額、予備費で調整。予算額8億9255万円に変更なし

◇後期高齢者医療保険(第1号)

諸支出金30万円増額し、1億4877万円に

◇介護保険(第1号)

地域支援事業費4万円増額、予備費で調整。予算額11億3318万円に変更なし

◇水道事業(第1号)

浄水施設費に1350万円増額し、4億8735万円に

条例改正

・手数料徴収条例

個人番号通知カードの再交付廃止による

・歴史民俗資料館設置条例

高校生及び18歳未満の子どもの入館料無料による

・消防団員等公務災害補償条例

補償額の増加による



タブレットで楽しく勉強

子どもたちへ1人1台タブレット配備に向けて

6月定例会上程の令和2年度各会計補正予算の分科会付託分を質疑しました。

主 な 質 疑

一 般 会 計

◇健康福祉課

問 感染症予防事業の組み換えは、新型コロナの関係で予防接種が減少したためか。

答 他市町村施設入所者のための補正。予防接種率の減少傾向はあり、勧奨していく。

問 協力隊の公用車賃借料の減額理由は。

答 現有の公用車が利用できるようになった。

問 買い物支援の協力隊は「お助隊」事業の一部か。

答 そのような位置づけ。

問 いち早く買い物支援を始めたが、状況は。

答 エーコープ飯島店利用者で、体調不良のため買い物に困っている人がおり、先行して取り組んだ。現在、10人程度を支援。

問 「お助隊」のリーダーシップは社協がとるのか。

答 課に調整幹を配置した。リーダーシップは町と社協が連携してとる。町が調整機能を発揮し、事業実施など実働は社協と認識している。

◇教育委員会

問 児童生徒1人1台パソコンの配備であるが、リースは検討したか。

答 1台3万円代のタブレットで、リースの方が割高になる。

問 タブレットの活用計画は。

答 無償提供の「スマイルドリル」を活用する。家庭の通信環境調査をし、90%は整っているが、在宅授業には課題が残る。



スマイルドリル

問 現パソコン教室の活用は。

答 パソコン教室はWindowsの高性能パソコンとして、タブレットは活動的機能として、双方の特徴を生かしていく。



飯島小パソコン教室の様子

問 給食センター費設計委託料の財源組み換えは。

答 一般会計から起債ができるようになった。

問 基本設計ができたが、機能低下と感じる。

町長提案の食育・高齢者交流などが不十分と思うが、町長も了承しているか。

答 了解を得ている。

問 教育関連施設の予約システム使用料の内容は。

答 解散した「まちづくりセンターいいじま」のシステムが終了したため、新システムを見積もったが多額であった。

長崎県が開発したシステムが、自治体であれば安価に利用できるものでその費用。

特 別 会 計

◇国民健康保険

問 新型コロナ感染症傷病手当の予算化は。

答 当町では発生していないので見送った。

事例が生じれば予備費で対応する予定。

◇後期高齢者医療

質疑なし

◇介護保険

質疑なし

繰越に対する考え方を指摘

6月定例会上册の令和2年度各会計補正予算の分科会付託分を質疑しました。

主 な 質 疑

一 般 会 計

◇企画政策課

問 令和元年度の繰越額の見込みは。

答 約1億～1億5000万円の間だ。

問 繰越金1000万円の補正の理由は。

答 国の補正・コロナ関係の状況によっては、財政調整基金が必要となるので、繰越金で補正した。

問 繰越金が無かった場合はどうするのか。

答 見込みがあるので繰入れた。決算状況を見ながらやっていく。正確な額は9月に報告する。

※指摘意見

繰入れは本来9月に行うもの。仮に繰越金がなかった場合、この3号補正自体の整合性を失うので、6月補正はやめるべき。

問 町有地売払い収入約550万円とあるが、場所はどこで単価はいくらか。

答 場所は田切グリーン工業団地内の町道、1㎡あたり7422円で販売する。



撤去し更なる衛生化

◇地域創造課

問 与田切公園内「越百の水」の取入れ口に、蛇口を付ける理由は。

答 給水タンクが老朽化しており廃止する。衛生面も考え、水道の蛇口を設置することとした。

問 コロナ対策も考えると、蛇口よりセンサーにした方が良いと考えるが。

答 蛇口かレバーで業者と検討中である。

問 地域おこし協力隊員の事業費金額が変更になった理由は。

答 制度の改定があり、国からの交付金が40万円増えたため。

活動費を200万円、報償費を240万円と変更する。

問 新型コロナウイルス対策で「まちの駅」が休止した、活動はどうだったのか。

答 4月半ばから5月半ば休止し

た。まちの駅の隊員は計画的に休みをとり、出勤時には3密にならないよう現場作業を行った。

具体的には、まちの駅1・2号店の棚卸作業・飯島駅周辺の環境美化活動・まちなか運営委員の意見を聞きながらヒアリングを実施した。

問 町は協力隊員の人数が多いが、住民に認識されているとはいえない。なにか働きかけはしているのか。

答 地元で溶け込む機会をつくりたい。

隊員同士のミーティングを実施している。

問 町内だけでなく、近隣市町村の隊員とのミーティングなどはしないのか。

答 国・県の講習会などで横のつながりはできているので、他地域との交流は個別でしている。

◇産業振興課

問 補助林道整備事業に変更があるが、名称の変更のみか。

答 林道辰巳ヶ沢線の関係で、農山漁村の補助金を計画していた。

国から県への配分が少なかった
ので、県と相談の結果、変更となる。町の負担は1%増える。

問 農地耕作条件改善事業1380万円の内容は。

答 本郷第2の水路老朽化にともなうもの。

田切南割用水の老朽化によるもの。事業費が大きい
ため2年に分けて行う。

問 元気づくり支援金事業の定住促進プラットフォーム構築は、いつまでに作るのか。

答 できることから進めていく。支援金事業は、相談会やイベントなどの講師謝礼や旅費になる。

新規就農者への案内が現在ないので、パンフレットの作成や、町ホームページに掲載するものを作る。

特別会計

◇水道事業会計

問 更新する発電機はどのようなことに使用していたのか。

答 樽ヶ沢浄水場の非常用発電機として使用してきた。

昭和58年製で耐用年数は15年。昨年度末の点検で燃料漏れを発見、経年劣化のため更新する。

問 発電機の出力はどのくらいか。停電時にはどの機器を補えるものか。

答 出力は75kva。浄水機能全てを賄える。備蓄燃料で半日稼働できる。



本郷地区



田切地区



37年浄水をささえてくれた発電機

議会運営委員会

趣旨採択

◇「町議会のインターネット公開を求める」陳情

提出者：より開かれた議会を望む町民有志 代表 福田康子氏

賛成4 反対0

◆**内容** 町議会の各種会議のインターネット公開を。

新型コロナウイルス感染症対策としても、次の定例会から実施を求める。

| 討 論 |

賛成 趣旨採択とすべき。インターネット公開は早急に進めるべきだが、調査・調整に課題もあり、次の定例会（9月）となると難しい。

社会文教委員会

不採択

◇「医師養成定員を減らす政府方針の見直しを求める」陳情

提出者：県医療労組 執行委員長 小林吟子氏

参考人：下伊那医療労組 執行委員長 井壺一輝氏

賛成2 反対3

◆**内容** 2022年度以降の医師養成定員減の方向を見直し、医師数をOECD平均以上の水準に増やすこと。

| 討 論 |

反対 国は養成定員減に固執しているわけではなく検討を示している。

賛成 新型コロナウイルス感染症対応でも、各地で医師数不足が報道された。勤務状況の改善からも減らすべきではない。

反対 医師数は総数ではなく、地域偏在が問題だ。医師になるのは10年以上かかり、10年後の状況を見極める必要がある。

採 択

◇「国による35人学級推進と教育予算の増額を求める」請願

提出者：町教職員組合 執行委員長 宮澤妙子氏

紹介議員：久保島巖

賛成5 反対0

◆**内容** 国の責任において計画的に35人学級を押し進め、教職員定数改善を進めること。複式学級の定員の引き下げを。

| 討 論 |

討論なし

採 択

◇「義務教育費国庫負担制度の堅持を求める」請願

提出者：町教職員組合 執行委員長 宮澤妙子氏

紹介議員：久保島巖

賛成5 反対0

◆**内容** 教育の機会均等と水準維持向上のため、負担率を2分の1に復元すること。

| 討 論 |

討論なし

採 択

◇国に「公立・公的病院の国の基準に基づく一方的な再編・統合は行わないことを求める」陳情

提出者：上伊那社保協
代表 小林伸陽氏

賛成3 反対2

◆**内容** 公立・公的病院の統合や廃止は、地域での役割や医療実態をさまざまな角度から検討する必要がある。

| 討 論 |

反対 県議会から要請書が出ており、国も検討することになっている。意見書の提出をする必要はない。

賛成 一方的な方針には納得できない。地域のコンセンサスを得て進める問題だ。

給食センター 多目的施設としてどう運営

特別委員会は、総務産業・社会文教の2つの分科会を設けて各所管事務の審査を求め、分科会主査報告に対する質疑のあと、理事者への総括質疑・討論を行いました。その結果、付託された補正予算5議案を全て可決すべきものと決定しました。

主査報告に対する質疑

問 学校にパソコンを納入する件で、近隣市町村では4万5000円前後だと聞いたが、町は3万円の予算だ。質問はあったか。

主査 なかったが、県で統一して入札するので安価になるとのことだった。

問 ネットを多くの生徒が使い住民も使うと、ネット環境が不安定になるが対策をするかという質問はあったか。

主査 これから環境構築をすることだった。

問 文化館の予約システムは、システムのソフトの一部が止まったのか、IT環境に不備が出たということか。

主査 まちづくりセンターの解散で廃止し、新たに構築する。

理事者に対する総括質疑

問 給食センターの概略設計では、食育見学ルートが削除されているが、変更した内容を町長はどのように理解しているか。

町長 大事なのは、今のように給食を作る場所だけでなく、子どもと地域の人と一緒に食べ交流する多目的の施設であること。

作業や仕事の流れを見るルートはないが、今後検討する。大きな問題の欠如ととらえてはいない。

問 新型コロナの影響で、人が集まって食べることは難しいと思うが、設計変更を考えているか。

町長 新型コロナの影響は長期的なことなので、今は考えていない。

問 「お助隊」は、在宅福祉事業の一部であるが、人件費や経費など補正に出てこない。これで行えるのか。

副町長 当初予算の社協委託料に含めてある。再構築していく事業であり、社協との話し合いで、予算内で賄えるとして進めている。

問 文化館の予約システムは、まちづくりセンター休止に伴い止まっている。新システムの説明などの予算はないのか。

教育長 運用に関してはホームページに載せ、切り替え時には各団体などに説明していく。

問 文化館のトータルのIT環境は、第2庁舎防災施設として耐えるシステムで維持されているか、防災施設としてはどうか。

教育長 通常の業務はできるが、第2庁舎として使えるかわからない。

問 学力テストは、今までと違うシステムで、比較する必要はあるのか。

なぜわざわざ行うのか。

教育長 新型コロナの影響で全国テストが中止となり、3年生の学力を知ることができない。

標準的なテストを行い、指標としたい。

討論

一般会計補正予算(第3号)

討論なし

水道事業会計補正予算(第1号)

賛成 浄水場の発電機を37年間と長くいいに使用してきたことを評価し、今回の更新は賛成である。

その他特別会計

国民健康保険補正予算(第1号)・後期高齢者医療補正予算(第1号)・介護保険補正予算(第1号)の討論はありませんでした。



新給食センター イメージ図

6月定例会 本会議表決結果

条例の一部改正

※議案の採決は、堀内議長を除く11人で行います。

議案名	議決日	注記	賛成	反対	審議結果
町税条例等の専決処分の承認	即決	地方税法等の一部改正による	11	0	原案承認
国民健康保険税条例の専決処分の承認	即決	課税限度額の引上・軽減の基準額見直し	11	0	原案承認
介護保険条例の専決処分の承認	即決	賦課軽減率の改正1～3段階が減額	11	0	原案承認
手数料徴収条例	即決	通知カードの再交付廃止による	11	0	原案可決
歴史民俗資料館設置条例	即決	高校生及び18歳未満の子ども無料に	11	0	原案可決
消防団員等公務災害補償条例	即決	補償額の増加	11	0	原案可決

令和元年度補正予算（専決）

一般会計(第11号)	即決	事業確定により(P4)	11	0	原案承認
国民健康保険特別会計(第5号)	即決	事業確定により(P4)	11	0	原案承認
後期高齢者医療特別会計(第4号)	即決	事業確定により(P4)	11	0	原案承認
介護保険特別会計(第5号)	即決	事業確定により(P4)	11	0	原案承認

令和2年度補正予算

一般会計(第3号)	最終日	予算特別委員会審査(P9)	11	0	原案可決
国民健康保険特別会計(第1号)	最終日	予算特別委員会審査(P9)	11	0	原案可決
後期高齢者医療特別会計(第1号)	最終日	予算特別委員会審査(P9)	11	0	原案可決
介護保険特別会計(第1号)	最終日	予算特別委員会審査(P9)	11	0	原案可決
水道事業会計(第1号)	最終日	予算特別委員会審査(P9)	11	0	原案可決

請願・陳情審査決議

医師養成定員を減らす政府方針の見直しを求める	最終日	社会文教委員会(P7)	8	3	採択
国の責任による35人学級推進と、教育予算の増額を求める	最終日	社会文教委員会(P7)	11	0	採択
義務教育費国庫負担制度の堅持を求める	最終日	社会文教委員会(P7)	11	0	採択
「地方における公立・公的病院の一方的な再編・統合は行わないこと」の意見書」の陳情	最終日	社会文教委員会(P7)	8	3	採択
飯島町議会の各種会議をインターネットで公開することを求める	最終日	議会運営委員会(P7)	11	0	趣旨採択

※注 郵送による陳情は基本的に議案にならず文書配布されます

意見書の提出決議

医師養成定員を減らす政府方針の見直しを求める	最終日	三浦寿美子 提出	8	3	採択
35人学級推進と、教育予算の増額を求める	最終日	久保島 巖 提出	11	0	採択
義務教育費国庫負担制度の堅持を求める	最終日	久保島 巖 提出	11	0	採択
病院の一方的な再編・統合は行わないことを求める	最終日	三浦寿美子 提出	8	3	採択
新型コロナウイルス感染症検査体制の充実強化を求める	最終日	三浦寿美子 提出	11	0	採択

賛否が分かれた議案の表決結果

○は賛成 ●は反対

議案名	議員名											審議結果
	滝本登喜子	三浦寿美子	久保島巖	中村明美	橋場みどり	好村拓洋	折山誠	坂本紀子	浜田稔	本多昇	竹澤秀幸	
※議案の採決は、議長を除く11人で行います。												
医師養成定員を減らす政府方針の見直しを求める陳情	●	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	採択
国に対して「地方における公立・公的病院の国の基準に基づく一方的な再編・統合は行わないことに関する意見書」の提出を求める陳情	●	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	採択
医師養成定員を減らす政府方針の見直しを求める意見書	●	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	採択
国に対して「地方における公立・公的病院の国の基準に基づく一方的な再編・統合は行わないことに関する意見書」の提出を求める意見書	●	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	採択

第3回臨時会 5/12

令和2年度第3回臨時会に提出された案件は、新規条例案件1件・一部改正条例案件3件・補正予算案件（第1号）、追加案件1件が提出され、全会一致で可決しました。

条例改正

◇新型コロナウイルス感染症の影響により収入が減少した被保険者に対する国民健康保険税の減免の特例

◆**内容** 感染症により、主たる生計維持者が死亡、または重篤な傷病を負った世帯などへの減免処置

質 疑

問 現在までに、国保税の支払いが困難などの相談はあったか。

答 ない。

◇国民健康保険条例の改正

◆**内容** 県条例の改正により、新型コロナウイルスに感染した被用者に対して傷病手当金を支給するための改正。

◇後期高齢者医療条例の改正

◆**内容** 県条例の改正により、新型コロナウイルスに感染した被用者に対して傷病手当金を支給するための改正。

◇介護保険条例の改正

◆**内容** 県条例の改正により、新型コロナウイルス感染症の影響による減免の実施に伴う改正

令和2年度

補正予算

一般会計（第1号）

10億6718万円を追加し、総額59億2218万円に

主な財源

国庫補助金 9億6168万円
繰入金 5400万円

主な支出

特別定額給付事業 9億4757万円
商工振興費 1億 450万円

質 疑

問 商工業振興資金委託金の仕組みは。

答 年度当初に金融機関に預託金を預け、年度末に戻ってくる仕組みである。

問 新型コロナ対策で、アルコールや体温計などを購入するとあるが、体温計などは手に入らない状況である。現状は。

答 手に入らない状況だが、購入に向け準備をすすめる。

追加案件

発議第5号

◇種苗法一部改正案の慎重審議を求める意見書

◆**内容** 農民の権利として守られてきた種取りや株分けなどの一律禁止に対し、現在新型コロナウイルス感染症対策に翻弄されている中で、公聴会も開かれず農民不在の中での審議は拙速であり、慎重審議を求める。

賛成6 反対5

賛成 種苗法の改正後の施策の審議に十分な時間が掛けられずにいる現状では、拙速な審議を行わないよう意見書を提出すべき。

反対 国は、種子が海外に持ち出される可能性が高いので早急に行うべきとしている。



毎日の検温が大事

※全員協議会とは…全議員と理事者・執行機関の職員との協議・調整の場

令和2年度定例全員協議会を4/14・5/19に、臨時の協議会を5/1に開催しました。
町からさまざまな報告を受け、質疑しました。

全員協議会 4/14

主 な 質 疑

問 保育園は通常に運営しているが、学校は休校だ。働いている親の把握はしているか。

教育長 休校だが、自主登校日に、宿題や先生に質問できる体制にしている。

親が休めない場合は、教室で先生が対応をし、学童クラブへつなげている。

保育園の場合は、消毒をした部屋で対応している。

問 会計年度任用職員は、制度移行と合わせ全体で10人減、人数合わせしたのではないか。

答 職員を政策的に減らす処置はしていない。

問 会計年度任用職員制度になっても、総額で200万円の増だ。

これで待遇が改善されたといえるのか。

答 給与額は、少ししか上がっていないが身分を守った。採用の際に、条件を示し契約をしている。

研究をしたうえで、説明会を開きこの制度に移行した。

問 同一労働同一賃金を率先して行うべき役場で、処遇改善された形跡がほぼないが。

副町長 国からの通達でこの制度ができたので、今の事業のなかで精一杯やった。

答 いままで嘱託職員は数年給与

が上がらなかった。臨時職員の時は給与は毎年度改定してきた。

新制度では、一般職と同じように給与表を作り、職種により条件は違うが、毎年1号奉アアップする制度にした。

問 新型コロナウイルス感染症の経済対策を、町は今後どのようにするか。

答 各課で情報を集め、国の補正予算成立後に、町の補正予算を上程する予定。

問 給付金など、町単独での補助の考えは。

副町長 国・県の動向を見ながら検討したい。

問 中川村はどんちゃん祭りをやめて、給付するようだが。町の考えは。

答 行事の中止などは出てくると思うが、検討していきたい。

問 飲食店など、宮田村では村外のお客様はお断りなど対応している。休業の足並みを揃えることが必要だが、町の考えは。

町長 法的拘束力はないので、町外から来ないでほしいとはなかなか言えない。個人の自粛に頼らざるをえない。

臨時協議会 5/1

新型コロナ対策

主 な 質 疑

問 外国籍の人へ、外国語による状況周知や雇用相談はしたか。

答 多国語による周知は実施していない。

問 特別定額給付金のすみやかな受給を促すため、要配慮者への周知は。

答 一定期間後に申請がなければ、再度こちらから連絡する。

問 生活資金で、緊急を要する人の把握はできているのか。

答 新型コロナ対策と関係なく把握している。今回の件で給付を急ぐ必要がある人が約50人いる。

問 経営安定化資金は要件が厳しいが、見直しはしたか。

答 拡充と借りやすいよう要件整備を行った。

問 借りたいが、条件に当てはまらない人もいる。

その対策はあるか。

答 把握できていないので相談をしてほしい。

問 県の休業補償の対象となるのは何件か。町内の飲食業に対する支援の考えは。

答 最大50件を見込んでいる。町独自の支援は考えていない。

問 県と町での休業補償30万円だが、町が積極的に別の給付をしていくべきでは。

答 現状では考えていないが、今後の検討課題としたい。

問 制度資金は、税の滞納があると借りられない。そういう人に対する対策は。

答 今後の検討課題となる。

問 国は緊急事態を1ヶ月延長する考えに見えるが、町長はどのくらいのスパンで対策など考えているか。

町長 基本的には国・県の対策に従う。もう1ヶ月くらいは自粛の必要があると思う。

それ以上止めると経済が死んでしまうと思う。

問 国はほとんどデータを出していない。

感染者の増加ペースやPCR検査が少なく、死亡率も他国と比べ不自然な動きだ。

町として長期化することを前提に、財政対策や職員の勤務対策をする必要があるのでは。

町長 1つの考えと受けとめる。感染者ゼロにするのには長期戦とと思っている。

問 財源が必要になってくるので、各種の基金目的を越えて使えるよう、ただちに例規の整備をし、柔軟に対応できるようすべきだが。

町長 大胆に政策をとらないといけない時もくるかもしれない。そのときは協力願いたい。

全員協議会 5/19

主な質疑

問 持続化給付金と、県の休業補償から外れた事業者の支援を、早急に考える必要があるが。

町長 国や県の交付金などのメニューがあるが、個々どういう状況で受け取れなかったか精査しないとけない。

状況を見ながら判断する。



くらし復興券で町の経済循環を

問 持続化給付金は、全てインターネットでの申請となり、どこに相談すればいいのか不明確だが。

答 アンケート回答者を中心に、町から個別に給付金や制度のことを説明している。

問 実際に相談を受けている件数は。

答 30件ほどだ。

問 支援を受けられない人の要因はなにか。

答 売上が50%減の要件を満たさない人が多い。

問 くらし復興券の使用期限を3ヶ月としたのはなぜか。自粛期間が長引いた場合使いきれない恐れがあるが。

答 経済の循環を促したいので、期間を設けた。

問 くらし復興券は、一部の事業者への偏りがでるとの声もあるが。

町長 地域経済は循環してこそ経済基盤ができる。

全体で1億円事業となるので、有効に町内で使ってもらいたい。

問 くらし復興券は、事業者の資金援助にはならないのではないかと。
町長 町内で使用してもらうことが重要と考える。

定額給付金もあり、町内での消費拡大につなげるキッカケにしたい。

問 くらし復興券は出口戦略で、この数ヶ月に打撃を受けた事業者などへ、直接的な支援が先ではないか。

町長 いろんな見方がある。不公平がないようにしたい。

問 国・県の支援制度から漏れた人に、町単費を使ってでも救う気があるのか。

町長 もらえなかった人に対してどれだけの支援が必要なのか、際限がないのではないかと。

減益をカバーできる金額は用意できない。

総合的に精査して考えたい。

第4回臨時会 5/22

令和2年度一般会計補正予算 (第2号)

1億1775万円を追加し、総額
60億3993万円に

主な財源

国庫補助金	7365万円
諸収入	4410万円

主な支出

くらし復興券	1億390万円
避難所衛生用品	591万円
消防団活動支援備蓄品	306万円
学校衛生用品	200万円



にぎわったドライブスルー

〈追加案件〉

発議第6号 全員一致で可決

◇新型コロナウイルス感染症蔓延の中で事業者へのきめ細かな支援を求める決議書

◆内容 国の持続化給付金や、県の協力金の制度からも外れた事業者に対して、町の施策を議会が要望。

- ・「持続化給付金」に該当しない、売上げが25%以上減少した事業者と、営業自粛が明確に認められる事業者に対して、15万円の支給を町の単独事業で実施すること。
- ・実情を至急精査し、申請支援を行うこと。



決議書を町長へ

追跡記事

議会の決議書に町の動きは

令和2年度第4回臨時会5/22に決議し、町長に届けていた決議書に沿い検討が始まったか、副町長・産業振興課長に取材しました。

問 議会が提出した「コロナ感染症蔓延の中で事業者へのきめ細かな支援を求める決議」について検討を始めたか。

答 国の第2次補正もあり、決議書の内容に沿い、実現すべく検討をはじめた。

問 詳細は。

答 国のメニューにもハード・ソフト両面あり、何が使えるかも含めて研究している。

また、持続化給付金との兼ね合いや諸ルールも整える必要もある。

詳細はまだ発表できる段階ではない。

問 いつ頃実施の予定か。

答 いずれにせよ早急に取り組みたい。9月定例会前を目標に考えており、臨時会が必要になると考えている。

協議会は、5月27日に「給食センター建設」と「病児病後児保育計画」の課題や現況を聞き、6月11日には「給食センター設計」の内容を質疑しました。

新給食センター

給食センター新設計画の進捗状況を、教育委員会より説明を受け質疑しました。

基本設計が完成し、建設委員会の概ね了解を得たとの説明がありました。

6月11日には、ランニングコスト見込みの提示もありました。

質疑

問 アレルギー室の運営は。

答 調理員は専任とする。その分人件費の増が見込まれるが、児童生徒数の減少で、現行の8人体制で可能とみている。

問 職員トイレの使い勝手が悪くないか。

答 調理動線を重視した配置とした。保健所の基準もある。

問 食育は防災フロアで行うのか。

調理室の見学ができないが。

答 防災フロアを使う。見学コースは検討したが、費用対効果などで見送った。冷蔵庫の移動や壁をガラスにするなどの検討はしたい。調理室を見られるカメラの導入も検討。

問 現有の調理器具など使うか。

答 基本的に使わない。

問 国の追加支援は。

答 国の補正予算債を見込みたい。100%起債充当となる。

問 オール電化だが、非常時の対応は。ガスの準備は。

答 非常用電源は20時間の3日間を想定する。ガスも検討。

病児病後児保育

野々村邦夫医師と利用者代表中村孝子氏を招き、現状と課題の説明を受け質疑しました。

計画は、現在の「のどかクリニック」の敷地内に別棟で5室の103.5㎡(31.3坪)の施設。2021年春開業を目指している。

町の事業として位置づけられ委託を受ける形でないと、国の補助金が出ない旨の説明。

また、2児を子育て中で、伊那市にお勤めの中村さんからは「下伊那は受け入れてもらえないので近くは有難い。重症で寝付いている時は休んで診るが、少し治りかけが、一番困る」とお聞きした。

質疑

問 図面では部屋の面積がいろいろあるが意味は。

答 意味は無い。間取りの関係。部屋を間仕切りで、大きくしたり小さくしたりできるところも設けた。

問 経営計画では赤字が生じるが、それはどうするのか。

答 現状では私(野々村)の負担だが、それでは続かない。クラウドファンディングや企業支援を求めたい。

問 何歳から受け入れの計画か。

答 1歳児からを考える。1歳未満児は検討課題。

参考人の退出後、教育委員会と健康福祉課から制度や課題などの説明を受けました。



建設予定地



坂本 紀子

新型コロナ ウイルス

個人経営者への対応は 国の対策もあり 十分対応する 町長

問 町の初期対応はどのようなものか。

町長 2月25日、町長を本部長とした対策本部を開設し、全24回の会議を開いた。

総務課長 内容は、感染・蔓延防止の周知やイベント・会議の休止判断。

また、国・県や近隣の情報収集や報告、個人や各種団体の相談対応。

役場機能の維持と業務内容を協議し調整をした。

3月中旬以降は、行動自粛の周知・健康相談・衛生資材への問合せ、経営・生活相談・特別定額給付金や地方創生臨時交付金などや町くらし復興券の発行も含めた経済支援をしている。

指揮は本部長が行い、情報は随時全職員で共有している。

問 住民や関係者からの情報はどのように収集したのか。

総務課長 住民からの相談は4ヶ所の窓口で対応。事業所や医療機関と連絡を取り、把握した。

問 県の休業要請明けの5月6日以降に、影響のある個人・福祉施設・事業所・医院などから聞き取りをしたか。

その内容は。

総務課長 健康や医療機関の受診相談。県外から訪問や往来の相談。納税や公共料金・家賃などの猶予。

商工・農業者への支援策・融資、定額給付金の請求や児童手当の上乗せなどの問い合わせ。

福祉・医療機関からは、受け入れや対応の状況・衛生資材の状況を聞き取り対応した。

各施設の努力もあり、受け入れ停止はなく開所している。

商工業者にはアンケートの実施や電話をし、対応をしている。

区長会議や商工会・金融機関・社協と「経済対策情報共有連絡会議」を開き協議した。

問 聞き取りの中で、県の「30万円休業補償」から外れる事業者から、要望はあったか。

総務課長 金融機関・事業所はぜひ一律で配って欲しいと要望があった。

問 県とは別に、他市町村で個別に給付したところがある。

町がしなかった理由は。

町長 融資額上限を2000万円に拡大・7年間利子補給。保証料を町が負担し、据置期間を設けた。

これは近隣市町村よりも非常に有利で、金融機関からも『国の融資より非常に良い』と評価された。始めに、運転資金を支えることを手がけた。

問 町には個人経営者が多く、対象とならない人が多い。

独自に支援する発想はなかったのか。復興券だけか。

町長 普通の企業も小さな企業も町の活力の一員であり、無視したわけではない。いろいろな形の中で借り入れはできるはずである。

復興券は、1万円を5000円で購入できる。国の10万円の給付金に対して微々たるものだという声もあるが、100兆円の経済規模の中での10万円と、予算規模50億円の中の5000円という、その割合は3桁ほど違う。町民へのお見舞金として出している。

今後国の対策もあり、対応していきたい。

問 住民から、『誰もがPCR検査を受け早期の発見ができなければ、死亡率が上がるのでは』といわれた。町長の考えは。

町長 厚生省のデータで、インフルエンザは毎年約2000万人の感染者で死亡者は約3000人。

今回の新型コロナウイルスは感染者数約1万7000人、死亡者は約900人。

非常に恐怖感をあおられ、治療薬・ワクチンがないとの不安が先行し、誹謗中傷に向かった。

今後はワクチン・治療薬の開発が最も大事。これができるまで、PCR検査を行うのだが、これは約30%の正確度だという。しっかりとした情報を基に、誹謗中傷せず、冷静に対応しなければならない。再発が予想されるので的確に対応することが必要だ。

(以上1件質問)



消毒を日常に

コロナ
感染下

防災体制の見直しを

国・県の情報を得て検討中 町長



浜田 稔

問 近隣で地震が散発している。今の防災計画では避難所が3密の場になってしまう。感染者の避難先も必要だろう。

町の検討状況は。

町長 大規模災害と感染症の複合災害への検討は不足していた。

緊急の課題であり、国からの助言や県からの避難所運営マニュアル改訂情報に基づき、町の対策を検討している。

総務課長 町内の宿泊施設は限られており、耐震化の進んでいる企業などとの連携も視野に検討したい。

避難所での健康確認や発症者の専用スペースは最重要課題だ。

問 昨年の自治会防災訓練では、農業用ハウス活用の提案も出たので検討を。

医療関係者の負担も、従来の想定を超えるだろう。発熱外来診療所の分離は今からでも始めるべきだが。

町長 国の交付金を活用し、避難所に衛生資材を配備する計画だ。医療関係者の意見を聞き、医療を守るルールも作りたい。

形骸化した組織
この機会に見直しを

問 新型コロナウイルス感染症と向き合う中で、社会全体の新しいあり方への考えが高まっている。この機会に町内の形骸化した組織も見直してはどうか。

たとえば自治会役員に負担感のある防犯指導員や環境衛生自治会の町代表などだ。また行政が補助している団体の中には、講演会・懇親会のセットで、事業計画を消化しただけの決算報告書も見受けられるが。

町長 当初予算で認められた各種団体への負担金は、それぞれの事業目的に沿って町の施策に反映している。

単に事業を取りやめるより、さらなる時代変化への研究となるよう努めたい。

私からも首長合同の研修を隔年にするなどの提案もしている。

問 感染症対策で、各団体の中止になった事業が少くない。

補助金分を翌年度に繰り越すのではなく、会費を減額するなど、少しでも町民の経済負担を軽減するよう、各団体にアドバイスしてはどうか。

町長 団体それぞれの考えや取り組み方がある。組織の実情や今後を見据え、熟慮してもらいたい。

心の通う放送に

問 町民に感染症対策を求める放送が「上から目線」だとの意見を少なからず聞いた。

『「一人一人の自覚、自分が感染者かもしれないという意識が大切」のような説教的な言葉だった。休業補償も約束されず、現金給付には煩雑な条件をつけられている中で、協力への感謝も相談窓口の案内も無かった』との声だ。改善を求めるが。

町長 町民の理解・協力に感謝している。言葉づかいは、気がついたら言ってほしい、いつでも直す。相談窓口はさまざまな媒体で伝えてきた。



複合災害に備えを

〔以上3件質問〕



好村 拓洋

新型コロナ 収束後

まちの将来像は 魅力を引き継ぎ・磨く 町長

問 新型コロナ感染症は、世界で700万人が感染し、死者も40万人を超えている。日本でも感染者が1万7000人を超え、死者900人を超えた。

新型コロナ感染者に対する度が過ぎる非難が各地で見られる。町では幸い感染者は出ていないが、出た場合の対応は。

町長 町で発生する・しないに関わらず、メディアはもとより一人一人・地域社会全体で偏見や差別を広めないよう、モラルと高い意識が必要。

町は正確な情報に基づき、冷静な対応を呼びかけていく。

問 今回の新型コロナは世界的に蔓延し、封じ込めに失敗した。すでに誰もがかかるという認識が必要だ。

ベトナムでは徹底した検査と隔離を実施し、成果を上げている。そして退院された人を地域全体でいたわることができている。

町で発生した場合、町民同士がいたわれるよう、情報だけでなく周知を求めるが。

町長 世界からの日本の評価は数字だけでいうと感染者が少なかった。

自粛要請のなか、8割移動制限の目標に対し、みんなが自主的に頑張った結果と考える。

新型コロナも、日本人に抗体が備わっていき、風邪と変わらないようになる。そういう理解を深めるには時間がかかる。

新型コロナ患者が出ても、みんなが見守っていく姿勢は大事だ。

問 日本の感染者数は「感染確認者数」が1万7000人というだけだ。8割が無症状といわれる新型コロナで、実態を表しておらず、潜在的には10万人いてもおかしくない。

ワクチンが出回るまで数年かかるかと報道されているなか、新型コロナは脅威という認識が必要だ。

新型コロナ収束後の、町の姿

をどのように考えているか。

町長 できる限り元の経済や社会活動が戻るよう願っている。

世界は、今までグローバリズムの経済を推進してきたが、各国が国内で自給自足の時代に入ると思う。

町の経済基盤は、世界・日本経済に影響されるなか、緑豊かな田園風景・農業は基幹産業と捉え、守りたい。

問 東日本大震災の後、暮らし方の変化を求め移住ニーズが増えた。今回の新型コロナでも一極集中の弊害が出ており、移住ニーズが広がる。

町内経済の活性化を促すにも「消費者を増やす・商売のチャンスがある」のが重要で、移住ニーズはチャンスと捉えることもでき、取組み強化を求めるが。

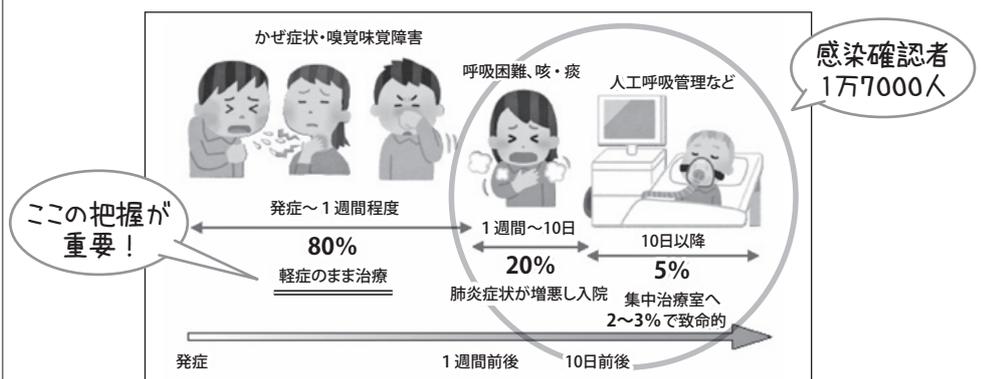
町長 価値観の変化でそういう流れに期待している。

まずは、町から仕事で都市に出ていった人々に、もう一度田舎に帰ってきてほしい。

今回の対策のなかで、都市で学ぶ学生にお米を届け、つながりを大事にした。

根底には町の生活の魅力を引き継いで、磨いて発信していくことが行政の目標と考える。

〔以上1件質問〕



引用：厚労省 診療の手引きより

新型コロナ
対策

方針待ちでなく声をあげて

議会でも意見書を 町長



三浦 寿美子

問 県保険医協会の会員アンケートによれば「4月の外来患者が減った」88%・「収入が減った」84%である。医療機関・介護事業所では、患者・利用者が減少し収益が大幅に落ち込む予想だ。

町内開業医でも、4月の外来患者は感染の不安から電話受診が増加し、収益がかなり減っているといっている。

一方で隔離室や通路の確保・消毒液・マスクなど感染予防対策の費用が増加しているという。

介護事業所では、デイサービスの利用控えがあり、訪問リハビリを中止しているとのこと。

町内の医療・介護・福祉事業所の状況把握と支援策は。

町長 町内の医療・介護・福祉事業所とは常に連絡を取っており、受診控えなどの状況も聞いている。

町としてマスクの配布や斡旋をした。福祉事業所では、相談窓口を設け対応してきた。

国・県の支援を利用している事業所もあると聞いている。

今後も情報提供や相談への対応をしていく。

問 マスク・消毒液以外の支援を考えているか。

町長 医療機関は運転資金の規模が大きい。国の第2次補正予算に期待している。

できる限りのことをやっていきたい。



心配ごと相談窓口へ

問 住民は外出の自粛で集会・会食などができず、ストレスは大きいと思う。今まで推進してきた介護予防・認知症予防・フレイル予防*などが中断している。さまざまな催しに参加してきた人への心と体への影響が心配だ。

また、介護予防・生涯学習・イベントの中止で、事業を支える講師などの収入が無くなるなど、影響が出ている。

経済的な支援が必要だが。

*加齢による身体・精神などの低下を予防

健康福祉課長 委託先の事業所を通じ、電話による安否確認・健康啓発チラシの配布などを行ってきた。

予防教室などは、感染予防を行いながら、健康でいきいき暮らす上で大切な事業と受け止め、できるところから再開している。

教育長 さまざまなイベント・

講座が中止となっている。新しい生活様式を基本に開催に努めたい。

早期に講座を始めることが、講師への支援と考えている。

問 新型コロナで、医療・介護・福祉の崩壊、住民の健康状態の悪化が心配される。

さらに、暑さや梅雨などの心配もある。

クールスポットは密になるので利用できない。

自宅での熱中症対策が重要になる。

安心・安全に暮らすための取り組みは。

健康福祉課長 国・県の情報を注視し、介護・福祉など関係機関や民生委員・地域の皆さんと連携して取り組んでいく。

問 介護予防教室など再開にあたり、希望者に抗体検査やPCR検査を行えば、安心して催しに参加できるのではないかと。

国の方針待ちでなく、声をあげて欲しいが。

町長 国に代議士を通じて要望していく。

議会も総理大臣あてに意見書をあげることで直接伝わると思う。

(以上1件質問)

町民の声を 議会へ

このページは町民の皆様取材協力をお願いして、町政や議会への意見や感想を掲載しています。

今回は、「町民の森整備推進協議会」に登場していただきます。

「町民の森」の再整備で魅力発信

からかさやま

傘山町民の森登山道入り口にある「町民の森」には、古くから清らかな水が湧き出す池の平と呼ばれていた場所がある。

大正末期からヒノキを造林し、町の建築資材にも活用された。昭和52年にはこの美林を称え、記念碑が建てられた。

以降、町の憩いの森として半世紀近くが経った。そしてこの荒廃する森を再度よみが

えさせたいという住民が中心となり、2年前から整備がすすめられた。

県の森林税を活用した再生事業は「町民の森整備事業推進協議会」として、2018年から始まり今年度で終了する。

会は、「町営業部自然部会」「南駒里山クラブ」「信州いいじま山を楽しむ会」「いいじま森の会」の4団体で構成。

今年の5月には1.4kmの遊

歩道の発行を予定している。

整備は完了したものの、今後は保安全管理が課題となる。遊歩道を活用し、人が行き交う森となり、新たな森の魅力がよみがえる。そんな「町民の森」となるよう引き続き取り組んでいきたい。

町と議会に望むこと

飯島町には町民の森だけでなく、美しい森がたくさんある。それぞれの区にある森も町有林も整備し再生することで、町の新たな魅力の発信が可能となる。

町の豊かな自然の可能性を見つけ出すことに、町も議会も知恵をしばって取り組んでいただきたい。



歩道や展望台・水辺の整備が完成して案内看板が設置された。

今年度は園内の植物を網羅したガイドブッ

【お詫び】

議会だより89号に誤りがありました。訂正し、深くお詫び申し上げます。

10ページ 請願審査

誤… 提出者 伊藤隆盛氏

正… 提出者 本郷自治会長会代表 本郷第5自治会長 伊藤隆盛氏

議会だより

クイズ

問題 ○○○復興券で町の経済循環を

ヒントは13ページに

正解者5名様にいいちゃん商品券進呈 (締切は8/31、発表は発送をもってかえさせていただきます)



応募要項 住所・氏名・年齢・解答とご意見などをご記入のうえ ハガキ・FAX・いいちゃんポストで、飯島町 議会事務局 議会だよりクイズ係宛まで

編集後記

梅雨も晴れ 集う仲間の えがお増し 平穏な日常に戻ることを願う 日々です。

発行責任者 議長 堀内克美
編集委員 ◎滝本 ○好村 三浦・久保島・坂本・本多